

特集

白石の材木岩、絶景崩落 来月3日の検断屋敷まつり中止



震災で岩が崩れて景観が損なわれた材木岩＝17日



震災前の材木岩。こいのぼりが泳ぐ＝2010年4月

宮城県白石市小原地区の国天然記念物「材木岩」が東日本大震災と余震で幅10メートル、高さ最大70メートルにわたって崩落した。一帯の材木岩公園も危険箇所が見られ、一部が立ち入り禁止となった。5月3日に公園で開かれる予定だった「春の検断屋敷まつり」も中止される。

材木岩は白石川の左岸に約100メートル続く石英安山岩の壁で、材木を並べたような奇観で知られる。震災で岩壁の最下流部の岩が川に崩れ落ちた。

関係者によると、3月11日の本震で初めの崩落が起き、余震で拡大した。上流の七ヶ宿ダム寄りの数カ所でも崩落が見つまっている。

1978年の宮城県沖地震でも岩壁が一部崩れたが、今回の崩落は当時を大きく上回る。対岸の「虎岩」でも落石があり、公園の道路や園路の手すりが壊れた。

市は公園の立ち入りを一部禁止した上で、文化庁に状況を報告。崩落岩の撤去など今後の対応について検討している。

地元住民でつくる小原地区活性化推進協議会は材木岩で地域づくりを進めていた。2005年からまつりの時期、白石川にワイヤを渡して約200匹のこいのぼりを掲げた。「コいの滝登りを思わせる」と観光客から評判だったという。

会長の高橋昶さん(76)は「景観が損なわれ、観光名所が台無しになった。春まつりは中止でも、お盆には夏まつりを開いて帰省客を迎えたい」と話している。

(佐々木篤)

2011年04月19日火曜日